

2018年度

# S 日本史問題

## 注 意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は12ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号はI・IIとなっています。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

### マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

1. マークは、下記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
2. 1つのマーク欄には1つしかマークしてはいけません。
3. 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきらずはきれいに取り除いてください。

マーク記入例：

A	1	2	3	4	5
	○	○	●	○	○

(3と解答する場合)

I. 次の文1～4を読み、下記の設問A・Bに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

1. 近年、仮想通貨の流通が拡大して世間の注目を集めているが、わが国において通貨がいかなる変遷を経てきたのか振り返ってみよう。まず、わが国で最初に鑄造された銭貨と考えられるのが、7世紀後半の天武天皇時代に鑄造された（イ）である。ただし、（イ）は縁起物あるいは護符としても使われていたため、当時は十分に流通しなかったようである。その後、本格的かつ継続的に鑄造された銭貨は、708年に鑄造された（ロ）であり、政府による政策的な後押しもあって限られた範囲で流通した。それ以降、さまざまな銭貨が政府により<sup>1)</sup>鑄造される。（ロ）の銅銭を含めて律令国家が12回にわたって鑄造した銅銭をまとめて本朝（皇朝）十二銭という。そのうち、12番目に鑄造された銅銭で、958年に<sup>2)</sup>村上天皇のもとで発行されたのは（ハ）である。このように、律令政府は新たな銅銭を繰り返し発行したが、新規に貨幣を発行する場合、旧銭の10倍の価値で通用する新銭を強制することもあった。その結果、新銭になるにつれ、形は小さく、重さは軽く、かつ鉛などが多く含まれる傾向が強くなり、貨幣の価値体系がくずれて混乱が生じたため、社会の貨幣離れが進み、本朝（皇朝）銭の流通は衰退していった。

2. 中世に入ると、政府が本朝（皇朝）十二銭のような貨幣を発行することはなかった。その反面、生産技術が高まって多くの商品が流通した結果、交換に用いられる貨幣の必要性は急速に増大した。たとえば、12世紀後半に主に流通したのは、当時の中国との貿易を通じて大量に輸入された（ニ）であった。その後も中国から<sup>3)</sup>銭貨の輸入が続き、なかでも洪武通宝や永楽通宝などは代表的な流通貨幣となった。このような輸入された官鑄銭を中心に貨幣の利用が普及した結果、国内産の粗悪な私鑄銭も流通するようになり、一部貨幣を拒否したり、貨幣の質に応じて価格差をつけたりする（ホ）がおこなわれ、流通が混乱した。そのため、室町幕府や戦国大名はこの混乱に対するさまざまな<sup>4)</sup>対応策を講じた。

3. 16世紀に入って、織田信長は金銀を貨幣として流通させるなど、（ホ）の問題に頭を悩ませながらさまざまな手を打っている。<sup>5)</sup>全国統一を達成した豊臣秀吉が1588年に鑄造させた代表的な貨幣は、菱大判とも呼ばれた（ヘ）大判（金貨）である。こういった金貨の大量鑄造は、秀吉が全国各地の鉱山を蔵入地（直轄地）として支配していた<sup>6)</sup>ために可能であったと考えられる。江戸時代には、これらの直轄鉱山を引き継いだ幕

府により、金・銀・銭の三貨が鑄造されて全国で幅広く流通する。17世紀に入ると、銀座や銀座が設けられ、金貨のほかに品位や重さをはかって使用する（ト）貨幣である丁銀や豆板銀なども鑄造された。これらに加えて、銭座では銭貨も鑄造されており、1636年に幕府がはじめて鑄造した銅一文銭である（チ）は、大量に発行されて流通したため、中国から輸入された通貨や悪貨は利用されなくなった。こうして17世紀中頃から三貨は全国にいきわたり、商品流通の発展に貢献した。それとともに、貨幣の交換を営む両替商が三都を中心に商売を拡大した。両替商は通貨の両替だけでなく、幕府や藩の公金の出納や為替取引および貸付もおこなって重要な役割を果たした。特に江戸や大坂には、金銀の両替や金融を担う本両替と銭の売買・交換をおこなう銭両替が存在した。大坂では、鴻池などの本両替のなかから、業界をとりまとめる役割をもつ（リ）が任じられた。その後は、幕府財政の窮乏を打開するための貨幣改鑄が重要な政策として位置づけられる。徳川綱吉は荻原重秀を登用し、1695年以降、それまでの慶長小判よりも金の含有量を減らした（ヌ）小判を大量に発行させ、その差額を幕府の収入としたが、物価は高騰して経済は混乱した。それに対し、新井白石が1714年に貨幣の重さを変え、金含有量の割合を高める改鑄を試みた。

幕末になると、1858年の（ル）条約調印を契機として他の4カ国とも条約を調印し、海外との商取引が増大した。当初は開港場にあった居留地で外国商人と日本商人のあいだで銀貨を用いた取引がおこなわれていた。ところが、日本と外国の金銀比価が異なり、金銀の交換比率は外国では1：15、日本では1：5と大きな差があった。このため、外国商人が外国銀貨を日本にもちこんで日本の金貨を安く入手したため、大量の金貨が国外に流出した。これに対し、幕府は重量を極端に減らした（ヲ）小判を鑄造し、金流出を抑えようとした。しかし、貨幣の実質価額が下がり、かえって物価を高騰させることとなった。

4. 明治時代に入ると、政府は1871年に金本位制にもとづく（ワ）を公布し、十進法が採用されるとともに、円・銭・厘を単位とする新硬貨が造られた。また翌1872年には、新たな政府紙幣を発行して、それまで流通していた藩札に加えて、1860年代後半に由利公正の建議で発行された（カ）や民部省札などは新紙幣と交換された。しかしながら、この新紙幣は金貨や銀貨と交換できない不換紙幣であったため、政府は金貨と交換できる兌換銀行券を発行させようと、渋沢栄一を中心に国立銀行条例を定め、第一国立銀行を設立させた。ところが、<sup>11)</sup> 当時は民間にも正貨は乏しく、彼が意図したような金本位制は実現しなかった。このように、通貨は色々と姿を変えながら、紆余曲折を経て発

展してきたことがわかる。

A. 文中の空所(イ)～(カ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B. 文中の下線部 1)～11)にそれぞれ対応する次の問 1～11に答えよ。解答はそれぞれに与えられた a～d から 1つ選び、その記号をマークせよ。

1. これに関する記述として正しくないのはどれか。

- a. 京・畿内を中心とした地域の外では物品による交易もおこなわれていた
- b. 政府は銭貨を蓄えて献上した額に応じて位階を授ける制度を定めた
- c. 都の造営に雇われた労働者に対して銭貨が支給された
- d. 庸・調を銭貨で支払うことを義務づけた

2. この天皇に関する記述として正しいのはどれか。

- a. 延喜の荘園整理令を發布し、律令政治の復興に努めた
- b. 在位中に承平・天慶の乱がおこり、政情は不安定であった
- c. 摂政や関白を任命せず、菅原道真を重用した
- d. 天曆の治と呼ばれる天皇親政をすすめた

3. これに関する記述として正しいのはどれか。

- a. 隠元隆琦が大蔵経を持ちかえった
- b. 平忠盛が摂津の大輪田泊（兵庫港）を修築して積極的に貿易を推進した
- c. 取引には貿易を統制するために発行した割符が用いられた
- d. 日本からの主要な輸出品は砂金・硫黄などであった

4. これに関する次の文 i・ii について、その正誤の組み合わせとして正しいのはどれか。

i. 一定の悪銭の流通を禁止して精銭の流通を目指したが、需要に比して精銭の供給が足りず、西日本では米や銀による決済もおこなわれていた

ii. 流通貨幣（一文銭）間の交換比率を定めた

- |          |        |          |        |
|----------|--------|----------|--------|
| a. i : 正 | ii : 正 | b. i : 正 | ii : 誤 |
| c. i : 誤 | ii : 正 | d. i : 誤 | ii : 誤 |

5. この人物に関する記述として正しいのはどれか。
- a. 安土城下町に楽市令を出して、商工業を活性化する政策をおこなった
  - b. 畿内を追われていた足利義輝を將軍職につけて、全国統一の足掛かりをつくった
  - c. 駿河の今川義元を討ち、居城を今川氏の稲葉山城に移した
  - d. ポルトガル人のフランシスコ＝ザビエルの京都在住を許可した
6. これにあてはまらないものはどれか。
- a. 石見大森銀山
  - b. 佐渡金山
  - c. 但馬生野銀山
  - d. 別子銅山
7. これに関する記述として正しくないのはどれか。
- a. 金座では後藤庄三郎のもとで小判（一両）や一分金などが鑄造された
  - b. 金座は当初江戸と京都におかれたが、後に京都に一本化された
  - c. 銀座はまず伏見・駿府におかれたが、後に江戸に一本化された
  - d. 同規格・同品質の金貨・銀貨の大量鑄造を最初に指示したのは徳川家康であった
8. これに関する記述として正しいのはどれか。
- a. 主に西日本では金貨が、東日本では銀貨が用いられていた
  - b. 銀貨の単位は「両・分・朱」であった
  - c. 商人が発行する少額の私札が流布し、三貨の不足をおぎなうこともあった
  - d. 錢貨は1貫＝100文で交換された
9. この人物に関する記述として正しいのはどれか。
- a. 殉死の禁止を命じ、主人の死後は殉死せずに跡継ぎの新しい主人に奉公することをはじめて義務づけた
  - b. 1683年に代替わりの武家諸法度を出し、第一条の内容を大きく改めた
  - c. 側用人の間部詮房を信任して政治の刷新を図った
  - d. 徳川家綱の息子であり、將軍になる前は上野国館林藩主であった
10. これに関して、1859年に新たに開港した場所の組み合わせとして正しいのはどれか。
- a. 新潟・長崎・横浜（神奈川）
  - b. 新潟・兵庫・横浜（神奈川）
  - c. 箱館・長崎・横浜（神奈川）
  - d. 箱館・新潟・兵庫
11. この人物に関する記述として正しくないのはどれか。
- a. 江戸幕府末期に一橋慶喜に仕えた
  - b. 華族・政商・木綿問屋などの出資を得て大阪紡績会社を設立した
  - c. 小型の国産力織機を開発し、国内に普及させた
  - d. 明治維新後は大蔵省に勤務し、辞任後に実業家として活躍した

Ⅱ. 次の文1～3を読み、下記の設問A・Bに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

1. 民衆思想史研究を切り拓いてきた安丸良夫は、勤勉・儉約・孝行などの生活規範を中核とした民衆的諸思想を通俗道徳と呼び、こうした思想がほぼ元禄・享保期から展開しはじめるとして、以下のように論じている。「家」の没落を防ぐために重視された通俗道徳は、三都とその周辺からはじまったのであり、『世間胸算用』を著した（イ）<sup>1)</sup>による町人物にもみられる。通俗道徳を唱えた代表的なものが、18世紀に京都の町人（ロ）<sup>2)</sup>がはじめ、庶民の生活倫理をやさしく説いた（石門）心学である。そして、18世紀末以降、とりわけ、文化・文政期以降になると、通俗道徳は農村部においても展開していった。また、（ハ）<sup>3)</sup>組合という農民の協同組織をつくり、本百姓の農業経営の安定をめざした大原幽学や、農民出身で農民の勤勉・儉約と領主の責任を説いて農村立て直しをはかった（ニ）<sup>4)</sup>も通俗道徳の提唱者であり、同時期に多くの村々にその影響力を伸ばしていった。（ニ）が報徳仕法と呼ばれる方策を施したのは荒廃した村々だったが、彼はそれらの村々の貧困の原因を、たんに経済の問題ではなく、飲酒・博打・怠惰などの生活態度の問題としてとりあげ、生活規律の確立によって、貧困や荒廃に陥らずにすむと説いて回った。こうした道徳は人々の経済活動における能動性を引き出す一方で、百姓一揆の指導者を支える思想ともなった。しかし、通俗道徳はやがて村の支配層と結びついて、飲酒や賭博・踊・芝居・三味線・長唄などの制限へとむかい、こうした動きは若者組の改廃、そして近代になると青年会・青年団への改組につながっていった。
2. 通俗道徳は、その後も農村青年に影響を与え続けた。1923年、関東大震災の後に、個人主義の風潮や社会主義の台頭を警戒して政府が出した「（ホ）<sup>5)</sup>詔書」は、勤勉や儉約を説くものだった。農村青年団のなかには、これを青年団が発行する刊行物に掲載し、禁酒や勤儉貯蓄に努めるものもあった。しかしその一方で、1920年代に長野県上田・小県地域の諸青年団が発行していた刊行物には、青年たちの意識が大きく変化を遂げている様子がうかがえる。この地域の農村青年は、護憲運動や政党政治を議論の対象とするようになり、普通選挙の導入にも強い関心を持っていた。また、彼らはさまざまな社会問題や学問研究への関心も深め、多彩な講師を呼んだ講演会を催し、多数の書物を購入した。たとえば、講師のなかには、後に著書『ファ（ツ）シズム批判』を発禁処分とされた（ヘ）<sup>7)</sup>や、社会主義者である猪俣津南雄などもおり、当時のベストセラーであった（ト）<sup>6)</sup>の著作『女工哀史』などを購入する青年団もあった。

ただし、彼らがとくに重視したことは、都市文化の発展に比べて、農村が立ち遅れていることをどうやって打開するかという<sup>8)</sup>ことであった。そして、昭和恐慌で村が窮乏に陥ると、彼らの絶望感は既成政党・無産政党、都会的価値観への反発へ向かった。こうしたなかで、農村では農民は自力更生するしかないとして、地主と小作人の対立を避ける風潮が強まった。そして、1932年、斎藤実内閣の下で、勤儉貯蓄と自力更生・隣保共助を強調し、共同販売・共同購入などを行う産業組合の設置をすすめる（チ）運動がはじまるのである。

3. 徴兵検査に関する青年の心情は、時代や地域によって異なるものの、アジア太平洋戦争がはじまる<sup>10)</sup>ころには、現役兵になることで地域社会に一人前の男として認められたいと思う青年たちの風潮は強くなっていった。しかし軍隊内務班での実際の生活は、（リ）が戦後発表した小説『真空地帯』で描いたような非人間的なものであった。また、華北の抗日根拠地で日本軍が行った大掃討作戦などに参加させられた青年たちも少なくなかった。こうした作戦は一般の住民に多大な被害を与え、中国側からは「焼きつくす、殺しつくす、奪いつくす」を意味する（ヌ）作戦と呼ばれた。

多くの青年が戦場で戦死、ないしは餓死するなかで迎えた日本の敗戦は、生き残った青年たちに虚脱感をもたらしたが、各地の青年団は、次第にその活動を活発化させた。そして、敗戦に至る経緯を知るにつれて、戦争指導者とそれに連なる人々を批判する青年たちがあらわれたのである。しかしその後、<sup>11)</sup>非軍事化と民主化というGHQの日本占領政策は大きく転換し、日本はアジアにおける共産主義の防波堤として<sup>12)</sup>位置づけられ、1951年には日米安全保障条約が調印されるに至った。

その9年後の1960年6月18日、当時学生だった安丸良夫は安保改定阻止国民会議の指導するデモ隊に加わって、国会議事堂の前にいた。新安保条約の成立後に登場した<sup>13)</sup>池田勇人内閣は、「寛容と（ル）」を打ち出して<sup>14)</sup>政治的危機を回避し、「所得倍增計画」をスローガンとした。この後、人々の私生活主義化が顕著となって、政治的な変革は重視されなくなっていったと安丸は見ている。こうした状況への批判意識から、安丸良夫は、維新変革期の近代化のなかでの民衆思想を研究テーマに定めたと述べている。

- A. 文中の空所(イ)～(ル)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B. 文中の下線部1)～14)にそれぞれ対応する次の問1～14に答えよ。解答はそれぞれに与えられたa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。

1. 享保の改革でおこなわれたことはどれか。
  - a. 金銀の流出を防ぐために、海舶互市新例を発して貿易額を制限した
  - b. 大名から石高1万石につき100石を臨時に上納させる上げ米を実施した
  - c. 年貢増収を狙って江戸・大坂周辺を幕府直轄地とする上知令を発した
  - d. 町費節約分の7割を積み立てさせ、江戸町会所に運用させた
2. これに関する記述として正しいのはどれか。
  - a. 江戸では、浅草で旗本・御家人の蔵米の受取・換金にあたった札差が、8代将軍徳川吉宗によって貸金を放棄させられた
  - b. 江戸では、老中松平定信の指示により、石川島に人足寄場がつくられ無宿人が収容された
  - c. 大坂では、堂島の米市場が老中松平定信によってはじめて公認された
  - d. 京都では、豪商淀屋辰五郎が17世紀はじめに幕府の命によって高瀬川を開削し、京一伏見間の水運をひらいた
3. この時期におこった出来事として正しくないのはどれか。
  - a. イギリス船がオランダ船のだ捕を狙って長崎に侵入した
  - b. 幕府は白河・会津両藩に江戸湾の防備を命じた
  - c. 幕府は朝鮮からの使節をそれまでの対馬にかえ江戸への派遣とさせた
  - d. ロシア船が樺太や択捉島を攻撃した
4. これに関する記述として正しいのはどれか。
  - a. 上野国の名主で一揆代表者であったとされる佐倉惣五郎は、義民として伝説化した
  - b. 17世紀前半には、松本藩で嘉助騒動という全藩一揆がおこった
  - c. 1866年、物価騰貴を背景として、武州世直し一揆がおこった
  - d. 徴兵令に反抗して茨城県真壁郡で真壁騒動と呼ばれる血税一揆がおこった
5. これに関する出来事として正しくないのはどれか。
  - a. 亀戸警察署構内で警備にあっていた軍隊が、労働運動の指導者らを殺害した
  - b. 警視庁内に特別高等課と呼ばれる思想警察がおかれた
  - c. 自警団や警察・軍隊によって、数千人にのぼる朝鮮人が虐殺され、多くの中国人も殺された
  - d. 東京市と横浜市の大部分が廃墟と化した



6. 1920年代のこれに関する記述として正しいのはどれか。
- a. 枢密院議長であった清浦奎吾が首相となった内閣に対して、憲政会・立憲政友会・革新倶楽部の3党が憲政擁護運動をおこした
  - b. 第3次桂太郎内閣が組織されると、立憲政友会の尾崎行雄と立憲国民党の犬養毅らが中心となり「閥族打破・憲政擁護」を掲げる運動をおこした
  - c. 寺内正毅内閣は、「ビリケン（非立憲）」内閣と批判され、米騒動の後に総辞職した
  - d. 立憲政友会総裁であった原敬を首班とする本格的な政党内閣が成立した
7. 1920年代後半から1930年代にかけてのこれに関する記述として正しいのはどれか。
- a. 帝国大学教授久米邦武が「神道は祭天の古俗」と論じて、翌年に職を追われた
  - b. 東京帝国大学の史料編纂掛で、『大日本史料』『大日本古文書』などの基礎史料の体系的な編纂事業がはじまった
  - c. 丸山真男の政治学、大塚久雄の経済史学、川島武宜の法社会学などが、学生・知識人に大きな影響をおよぼした
  - d. 明治維新以来の日本社会の性格をめぐって、労農派と講座派の間で日本資本主義論争がはじまった
8. 第一次世界大戦後のこれに関する記述として正しいのはどれか。
- a. 私鉄の経営するターミナルデパートがあらわれた
  - b. 都市計画に基づき、丸の内に三菱第一号館と呼ばれた赤煉瓦の建物が建てられた
  - c. 日本髪に代わって女性の髪形として東髪が考案され、広くゆきわたった
  - d. 丸の内に帝国劇場が竣工した
9. 戦前のこれに関する記述として正しいのはどれか。
- a. 小作料も地租も現物納であり、米価の上昇は必ずしも地主の収入増につながらなかった
  - b. 地主の中には小作料収入をもとに企業をおこしたり、公債や株式に投資するものがいた
  - c. 政府は特別法をつくって、地主制の解体をめざした
  - d. 松方デフレ政策によって上昇した小作地率は、1890年代になると下落した

10. これに関する記述として正しいのはどれか。
- a. 国民皆兵制にもとづく近代的軍隊の創設は、薩摩藩の大村益次郎が構想した
  - b. 1872年の徴兵令により、士族・平民の別なく満20歳に達した男性から選抜して5年間の兵役に服させる兵制が立てられた
  - c. 1943年、大学・高等学校・専門学校に在学中の徴兵適齢文科系学生を軍に徴集した
  - d. 朝鮮には1943年に志願兵制度が導入されたが、徴兵制は施行されなかった
11. これに関する記述として正しくないのはどれか。
- a. 戦時中に捕虜や住民を虐待し、「平和に対する罪」をおかしたものが、B・C級戦犯として、アジアに設置された裁判所で裁かれた
  - b. 戦前・戦中の多くの指導者が逮捕され、28人が極東国際軍事裁判所にA級戦犯として起訴された
  - c. GHQは、戦争犯罪人・陸海軍軍人・超国家主義者・大政翼賛会の有力者らの公職追放を指令した
  - d. GHQは、天皇制を占領支配に利用しようとして、天皇を戦犯容疑者に指定しなかった
12. 1948年以降におこなわれたGHQの政策として正しいのはどれか。
- a. 経済安定九原則実行の指令
  - b. 神道指令
  - c. 二・一ゼネスト中止の命令
  - d. 秘密警察の廃止
13. これに関する記述として正しいのはどれか。
- a. これに関する国会審議のさなかに、アメリカ大統領が訪日した
  - b. これには、アメリカの日本防衛義務は明文化されなかった
  - c. これには、在日米軍が日本国内の内乱鎮圧に出動できるとする条項が追加された
  - d. この批准案は、衆議院で強行採決され、参議院の議決を経ずに自然承認された
14. この人物が首班の内閣の際におこなわれたことはどれか。
- a. IMFとGATTに加盟した
  - b. 『経済白書』に「もはや戦後ではない」と記した
  - c. 減反政策を開始した
  - d. 中華人民共和国とLT貿易の取り決めに結んだ

【以下余白】

